

ボランティア



Osaka Vol.48
2007 Spring

発行 (福)大阪府社会福祉協議会
大阪府ボランティア・
市民活動センター

特集

大学生のボランティア活動と 大学の取り組み



ZOOM UP! このボラセンの 広報戦略

HPやブログを活用し、迅速に情報発信

岸和田市社会福祉協議会ボランティアセンター

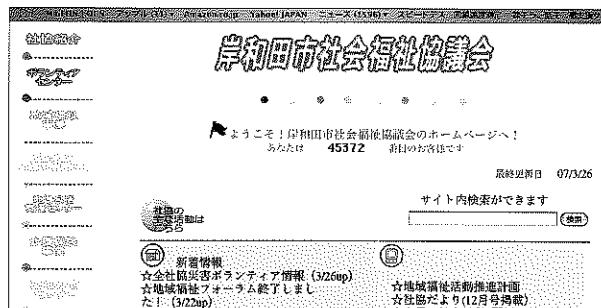
●広報活動の4つの柱

岸和田市社協では、平成18年度に「広報プロジェクト」を立ち上げ、広報活動全般について見直しが行われてきました。広報の柱となるのが、①定期刊行物の「社協だより」と「ボランティアだより岸和田」②ホームページ③パンフレット④イメージキャラクター「ポカボー」の4つ。それぞれ課題を明らかにして問題点を解決することで、より多くの人に社協を知ってもらい、活動の活性化につなげようとしています。

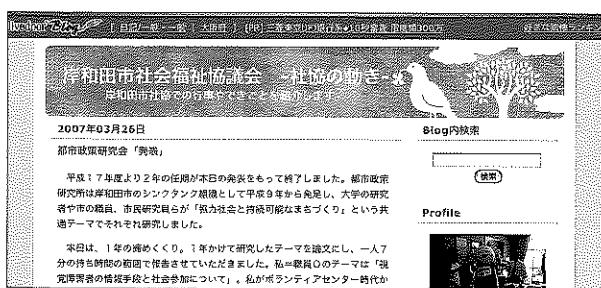
なかでも力を入れているのが、5年前に開設したインターネットのホームページの活用。だれでもいつでも情報を入手できるため、広報活動には最適な手段として重視されてきました。

同会のホームページは、ボランティアセンター、地域福祉事業、権利擁護事業など、多くのコンテンツ（もくじ）を設けて、各事業内容を詳細に紹介。とくにボランティアセンターでは、速報性が必要な単発のボランティアの募集やイベント情報をはじめ、ボランティアグループの紹介、研修会や講座情報を発信し、福祉系の学生や市民に喜ばれています。

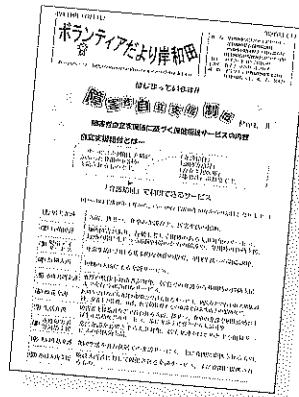
また、大阪府内の社協の中では数少ないブログ（日記風のホームページ）も立ち上げ、毎日のように情報を更新し、行事やその日の出来事などを紹介。どの部署からでも自由に書き込みができるようになっているため、職員が随時、原稿を書いて掲載しています。



社協のHP



ブログ



年4回、3,000部発行されている
「ボランティアだより岸和田」



年6回、岸和田市内で全戸配布
されている「社協だより」

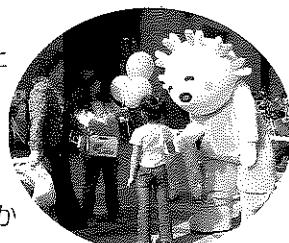
●視覚障害者にとってもわかりやすいHPに

「より多くの人に社協の活動を知ってもらうには、速報性に優れたインターネットを積極的に活用したいと考えています。しかしパソコンが使えない人や視覚障害者などさまざまな立場の人に配慮することがいまの課題です。またボランティアだよりなど従来の広報物もより読みやすいものにしていきたいと思っています」と、岸和田市社会福祉協議会のボランティアコーディネーター・川畠貴子さん。

最近では、音声読み上げソフトを使って、インターネットから情報を得ている視覚障害者も増えているため、利用者の自宅に出向いて聞き取り調査。その結果、目で見やすいHPが必ずしも聞き取りやすいとは限らないことがわかり、順次、視覚障害者にとっても利用しやすいようにHPを改良中。アクセシビリティの高いものにしようと作業が進められています。

また府内41社協にアンケートをとり、岸和田社協のHPについて評価してもらいました。写真が多くて親しみやすく、ブログの速報性に対する評価が高い反面、情報が多くてかえってわかりにくい面があるといった声も寄せられ、見直しが進められています。

「定期刊行物とホームページとの兼ね合いなど、4つの広報手段の役割分担をより明確にしていきたい」と川畠さんが話すように、広報プロジェクトで明らかになった課題を19年度は改善していく計画です。

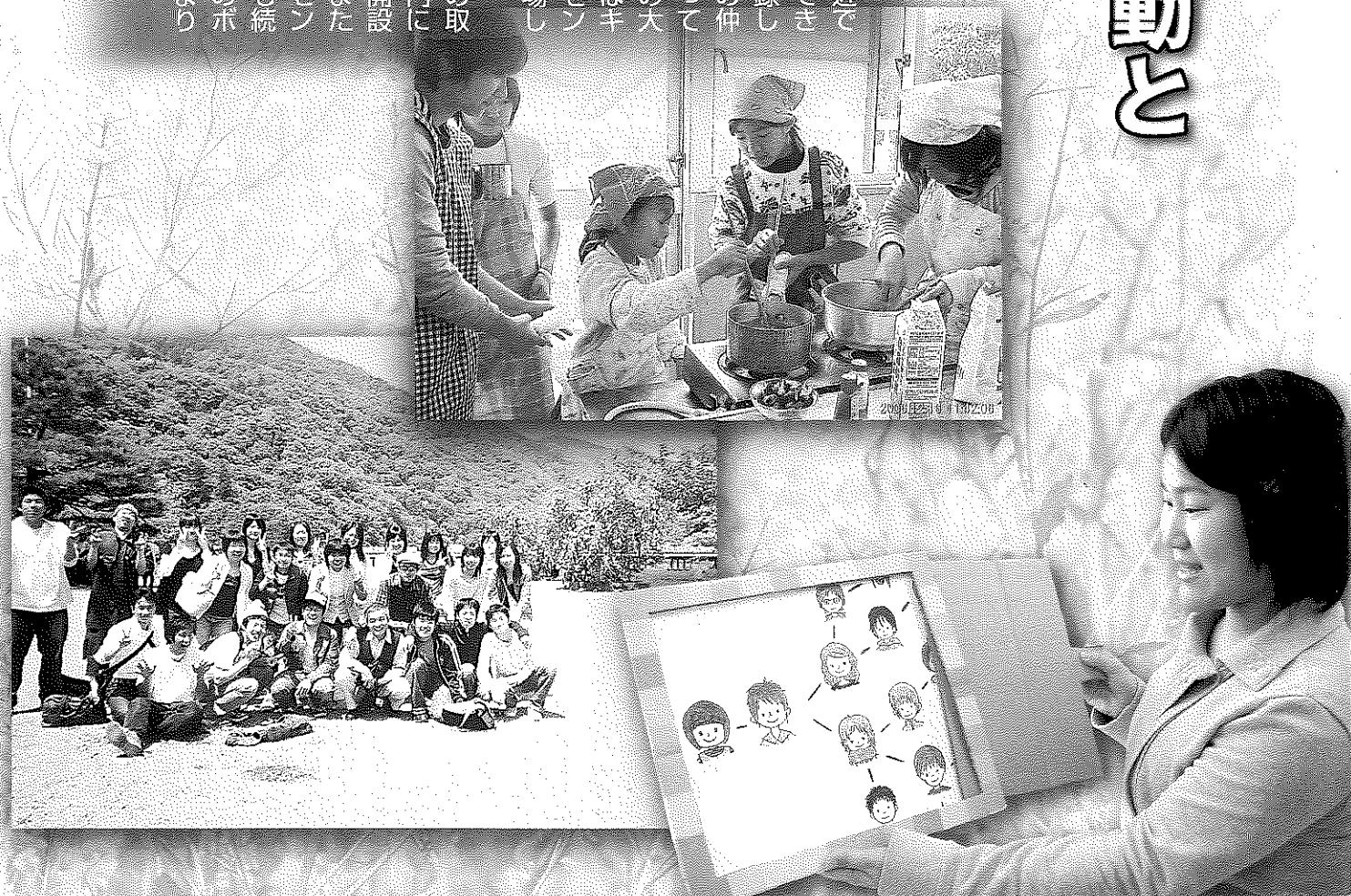


イベントなどで大活躍する
イメージキャラクター「ポカボー」

大学生のボランティア活動と 大学の取り組み

市民のボランティア活動が社会に根づくなか、最近では大学生の間でもボランティアは身近なものになってきているようです。地元のボランティアセンターに登録して個人として活動している学生もいれば、同じ大学の仲間で、あるいは大学の垣根を越えてグループをつくるて活動している学生も少なくありません。今では多くの大学に自主的なボランティアサークルがあり、なかにはキャンパス内に大学の正規機関として、ボランティアセンターやボランティアピューローを設置する大学も登場しています。

そこで今回は「大学生のボランティア活動と大学の取り組み」をテーマに特集を組みました。キャンパス内にボランティアセンター・ボランティアピューローを開設した大学として関西大学・桃山学院大学を取りし、また3月に開催された、府内の大学・短大ボランティアセンター情報交換会の様子もレポート。この会合は今後も続けられる予定ですが、こうした動きを含め、大学生のボランティア活動をめぐる新しい取り組みが大阪で始まりそうです。



『企てる楽しさ』と 『やり遂げる充実感』が、 ボランティア活動の魅力かも



毎週土曜日の 学童保育プログラム

寝屋川市社協ボランティアセンターの

登録団体「えんじょい」は、摂南大学に通う学生たちのボランティアサークルです。3年前の6月に4人の学生で発足しましたが、いまではメンバーも増えて「名簿に登録している会員は50名以上になりますよ」と代表の手塚誠さん（国際言語文化学部4回生）。その活動は、障害者支援、子どもたちとの交流、ボウリング大会など

「いわば居場所づくりですが、子どもたちの楽しそうな顔をみたとき、僕たちもまた楽しさを実感するんです」と長野拓郎さん（工学部4回生）。このプログラムの責任者で、メンバーには文化系が多い「えんじょい」の中では数少ない理系学生です。



楽しそうな子どもたちの笑顔が明日の活動につながります

断らないよう
「依頼があれ
ば基本的には
サポート、発
展途上国支援
…と幅広く、

活動を通じて、 健常者も障害者も 「同じ仲間」であることを実感

女子学生の入米藏（いりよねくら）
由季さんは、外国語学部の3回生。1

にしているからでしょう」と笑って語ります。

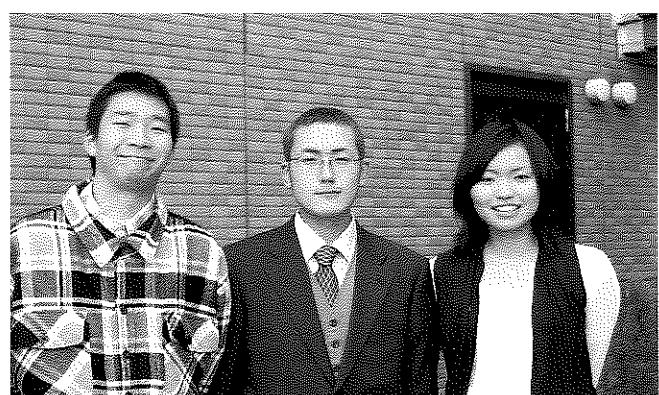
多彩な活動のなかでも、中核的な活動として位置づけられていますのが、毎週土曜日の学童保育です。多くの

小学校ではいま、市民ボランティアの協力を得て土曜日の学童保育が取り組まれていますが、「えんじょい」は枚方市のある小学校を1年半前から担当し、現在では欠かせないスタッフとなっているようです。

害者の方たちを「仲間」と呼んでいるのですが、一度接してみれば、健常者も障害者も同じ人間、同じ仲間だということが実感できる。それが理解できるだけでも、ボランティア活動の意味があると思うんです」と代表の手塚さん。そして「社会人になれば、おそらく活動は出来なくなると思うんです。かと言つて高校生には大学入試が控えている。だから考えてみれば、大学生のときこそボランティア活動の旬なのかも」と続けます。「いろんなプログラムを企画して、その実践を任される。いわば『企てる楽しさ』と『やり遂げる充実感』が、ボランティア活動の魅力かもしれませんね」と3人。成長期の若者に必要な「何か」を、彼らが掴みかけているのは間違ひなさそうです。

振返ります。

年次の秋に、友人に誘われて大阪市の長居公園で開かれた「障害者スポーツフェスタ」の手伝いをしたのがきっかけでした。「それまでは、私の生活半径に障害者はいませんでした。ですから最初は、どう接すればいいのかわからなかつた。でも接してみると、皆さんとっても明るくて、いきいきとスポーツを楽しめるんですね。変な心のバリアなんてすぐになくなりました」と



左から長野さん、手塚さん、入米藏さん

「必要とされている自分」を実感できる。
それが僕らを活動に駆り立てるのかかもしれません



子どもたちにとっても「土曜日の活動」が楽しみとなっているようです

なかでも中心的な活動が、学校週5日制に伴う「土曜日の子どもの居場所づくり」。

その一つ、「ものづくりの場」を提供する「ゆめ工房」

は、子どもたちが風鈴や団扇、焼き物や小さなプラネットariumづくりなどにチャレンジする楽しい工作教室

です。他学年の友だちや、大学生のお兄さんやお姉さんと一緒に作業をしていくなかで、

「子どもたちが相手を思いやり、個性を育み、ゆたかな人間関係を築きあげなければ…」

を築きあげていければ

「…」と森数樹さん。「ゆめ工房」の担当者で、同時にLEAFの代表も務める阪大生です。

一方の「ゆめChub（チュウボウ）」は、子どもたちが料理に挑戦するプログラム。材料の買出しから後片付けまで一緒にすることで、こ

こまでまた「チームワーク、仲間との一

子どもたちの個性を育み、ゆたかな人間関係を築きあげなければ…

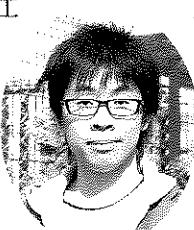
2004年に、大阪大学の学生を中心

に結成されたのがLEAF。今まで

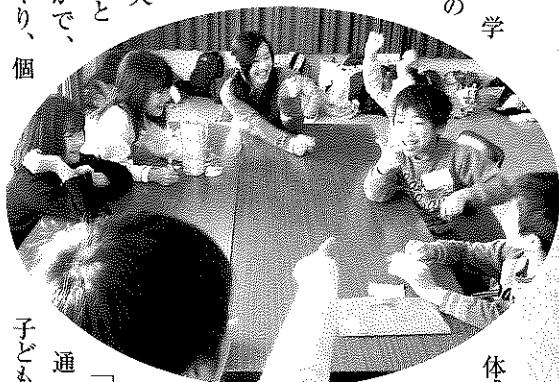
は大阪外大、梅花女子大、専門学校生、

社会人なども加わり、約20人の若者が

池田市・豊中市などで多彩なボランティアに取り組んでいます。



森数樹さん



ボランティアサークル
『LEAF』

体感が育まれます。

「お年寄りのサポートは最初はコミュニケーションをとるのに難しい面もありますが、いったん心が通じ合えば、最後には別がたい思いがこみ上げてきます。何ていうか、必要とされる自分が実感できるんですね。学生にとって、こうした実感はとても大きいと思います。ボランティアを通じて、得がたい経験をさせてもらっている、そんな気がします」とも森さん。

ところで、学生のボランティアサークルにとつて4ヶ月は新たなメンバー獲得のための大切な時期です。「出会い、発見、感動をキーワードに、新入生獲得に頑張ります」と森さんはさわやかな笑顔で語ってくれました。



ときには子どもたちと一緒にハイキングも

るなかで、子どもたちの親御さんから「引っ込み思案だったうちの子がすいぶん積極的になりました」とお礼の言葉をもらうことも少なくないそうです。

「出会い・発見・感動」がボランティアのキーワード

こうした子ども関連のプログラムだけでなく、LEAFではこれまで、池田市を流れる箕面川の清掃や、豊中市・池田市・能勢町・豊能町が合同で行うイベントに協力する形での「マイバッグキャンペーン」への参加、また老人ホームのお年寄りの買い物に付き添う「ショッピングサポート」の活動などにも取り組んできました。

添う「ショッピングサポート」の活動などにも取り組んできました。

お年寄りのサポートは最初はコミュ

ニケーションをとるのに難しい面もありますが、いったん心が通じ合えば、最後には別がたい思いがこみ上げてきます。何ていうか、必要とされる自分が実感できるんですね。学生にとって、こうした実感はとても大きいと思います。ボランティアを通じて、得がたい経験をさせてもらっている、そんな気がします」とも森さん。

ところで、学生のボランティアサークルにとつて4ヶ月は新たなメンバ

ー獲得のための大

切な時期です。「出

会い、発見、感動

をキーワードに、新入生獲得に頑張ります」と森さんはさわやかな笑顔で語ってくれました。

一般学生を活動につなげ、同時にボランティアサークルをさまざまな形でサポート

和泉市社協のボランティアセンターにも登録



よさこい踊り屋『菊頭』の皆さん

和泉市の丘陵地帯に広がる桃山学院大学のキャンパス。その一角の瀧洒な建物、キリスト教センターのなかにボランティア

ビューローがあります。2002年から立ち上げたためのプロジェクトが動き出し、現在では学内の一機関として、学生のボランティア活動へ

の参加促進、また、活動に取り組む学生をサポートするさまざまな事業を行っています。

「本学は”世界の市民を育成する”といふミッションを掲げていることもあり、これまで様々なボランティア活動の促進に取り組んできました。またイン

も20年以上の歴史があり、そんな意味では、ボランティアの土壤はもともとあつたと言えると思います。ボランティアビューローは、そんな風土があつて他大学にさきがけて設立されたといえるかも知れません」と語るのは、ビューロー相談員の大野順子さん。桃山学院大学の卒業生で、また非常勤講師も兼務しています。

ビューローの仕事として、「一般学生会にボランティア活動をしませんか?」といつた

「活動につなげる」というのがあるのは言うまでもありません。「たとえば、和泉市内の小中学校で授業やクラブ活動のサポートをしませんか?」といった

情報を流し、活動をコーディネートするなどですね」と大野さん。ビューローとして和泉市社会福祉協議会に登録しているので、「アイ・あいロビー」関連の催しに学生が参加することも珍しくないようです。

それと同時に力が注がれているのが、立ち上がったボランティアサークルに対するサポートです。

ボランティア系と文化系と体育会系にプラス、

国際ボランティアサークル「らぶ&ピース」の活動

桃山学院大学には現在7つのボランティアサークルがあります。障害者支援の活動に取り組む「ボランティアサークルむうみん」、手話でJ-POPを歌う「手話部・ピエロ」、子育てマップなど

桃山学院大学
ボランティア
ビューロー



づくりに取り組む「スマイルキッズ」、エイズ問題などに取り組む「MAPP」、パワフルな演舞でイベントを盛り上げる「よさこい踊り屋『菊頭』」、海外の問題に取り組む国際ボランティアサークル「らぶ&ピース」、そして「対面朗読、ボランティアグループ」の各サークルがそれぞれのテーマで活動していますが、「ときには壁にぶつかったりすることもなくはありません。そんなときには、励ましたり助言したりしながら、私たちをサポートするのも私たちの仕事です」と大野さん。

同時に、最近の社会にはボランティア活動と称してまったく違うことを行っている団体もあり、「そうした団体には接触しないよう指導することもある」とかで、「とにかく、いつでも気軽にビューローに、ほう（報告）れん（連絡）そう（相談）を！」と学生たちには言っています」と語ります。

「学内の学生サークルは大きく文化系と体育会系に分かれます

が、私はここに第3のグループとしてボランティア系を加えたいんです。そのためには質量とともにさらなる充実が必要ですが、7団体の学生たちと一緒にになって、桃山学院大学の学生ボランティア活動をますます活性化させていただきたいですね」とも。大阪の社会福祉の世界に数多くの人材を送り出している大学だけに、ビューローと学生たちの今後の活躍が楽しみです。

ボランティアセンター学生スタッフによる記念植樹
地域連携ボランティア。奈良県明日香村で、
2006年11月。



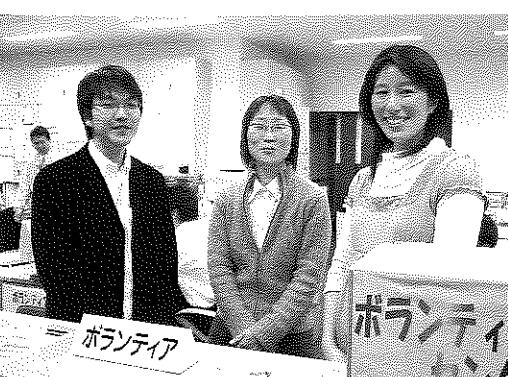
- ①ボランティアサークル・座・講習会の企画・実施
- ②ボランティア活動支援業務を移行・特化する
- ③学生スタッフによる事業展開
- ④各種講座・講習会の企画・実施
- ⑤ボランティア活動相談などです

団体の育成・活動支援、④ボランティア情報の収集・提供・コーディネート、⑤ボランティア活動相談などです

が、なかでも特に力を入れているのが、①の各種講座・講習会を中心とする学生へのオリ

エンテーションと啓発活動です。
「本学はもともと潜在的にボランティア意識の高い校風がありました」と語るのは、開設当初からセンター業務を担ってきた職員の神藤典子さん。「ボランティア」という言葉がまだそれほど一般的でなかった時代から、関西大学では子ども・国際交流・点訳などのクラブ・サークルがあり、また、落語や人形劇などのクラブ・サークルが、地域の福祉施設から依頼を受けて訪問公演を継続しているという伝統もありました。しかし学生たちは、それを明確に「ボランティア」と意識するという発表の場、成長の機会」と捉え、楽しんで活動をしてきたようです。年間を通じて多彩に開催される各種講座や講習会は、そういった潜在的な活動の「ボランティアとしての意識付け」をサポートし、そして育てていくことを目的に計画されています。

関西大学にボランティアセンター事務室が開設されたのは平成17年4月。それまで学生生活課で行っていたボランティア活動支援業務を移行・特化するかたちで設立されました。センターの主な事業は、①各種講座・講習会の企画・実施、②ボランティアセンター学生スタッフの育成および学生スタッフによる事業展開、③学内ボランティアサークル・



神藤典子さん(中)、岡田裕子さん(右)、山村温路さん(左)。センター事業は10名の学生スタッフの協力を得て行われています。

「対人コミュニケーション能力の向上を図る講座も」

「ボランティアをしたい、してみたいと考える学生を育てる。意識を育むこと。それが『大学のボランティアセンター』の役割だと思います」と語るのは、同じくセンター事務室の岡田裕子さん。同僚の神藤典子さん。「ボランティア」という言葉がまだそれほど一般的でなかった時代から、関西大学では子ども・国際交流・点訳などのクラブ・サークルがあり、また、落語や人形劇などのクラブ・サークルが、地域の福祉施設から依頼を受けて訪問公演を継続しているという伝統もありました。しかし学生たちは、それを明確に「ボランティア」と意識するという発表の場、成長の機会」と捉え、楽しんで活動をしてきたようです。年間を通じて多彩に開催される各種講座や講習会は、そういった潜在的な活動の「ボランティアとしての意識付け」をサポートし、そして育てていくことを目的に計画されています。



チラシやポスターなどの情報コーナー。概要はホームページでも公開。現在約180名のメール登録会員には随時新着情報が提供される。

センターが発足して丸2年。3月現在で8つの団体と約180名の個人が登録しており、これまでの累計ボランティア依頼件数は160件にのぼります。センター事務室では、「今後も学生ならでは、関大ならではのボランティア活動の開拓と支援を広げていきたい」と意欲的で、4月からは山村温路さんが加わります。大学ボランティアの先駆けとして、今後の取り組みが注目されます。

大学ならではのネットワークを生かし、地域にも学生にも役立つ活動をコードイネット

関西大学
ボランティア
センター



センター通信「Volury (ボラリー)」。4月に2号が発刊。生の声が伝わる体験談コーナーは、活動を発表する場として学生の熱い活動にも。

大阪府内大学・短大ボランティアセンター 情報交換会

去る3月13日、大阪社会福祉指導センターにおいて、10の大学と12の市町村社協ボラセン担当職員が参加して「大阪府内大学・短大ボランティアセンター情報交換会」が開催されました。当日は、龍谷大学教授の筒井のり子さんの「大学のボランティアセンターが地域に根づくために」と題する講演のあと、参加者は4つのテーブルにわかれて忌憚のない意見交換、情報交換を行いました。



「大学のボランティアセンターが 地域に根づくために」

龍谷大学教授 筒井のり子さん

それは、

阪神淡路大震災を契機に広がった

最近、各大学でボランティアセンターを開設する動きが広がっています。

では全国でどのくらいの大学がボランティアセンターを設置しているのでしょうか。高島高行さんという方が修士論文をまとめる際に調査したところ、なんと108の大学でボラセンが設置されているといいます。正式な機関として立ち上がつてはいないものも含ま

れるようですが、いずれにしても最近、学内にボランティア推進のための機関を設置する動きが広がっているのは間違ひありません。

大学のボランティアセンターは、95年阪神淡路大震災を契機に設置されるようになりました。関西学院ヒューマンサービスセンター、神戸大学の総合ボランティアセンターなどがその頃の開設ですが、これがいわば第1次ブームと言つていいくでしよう。

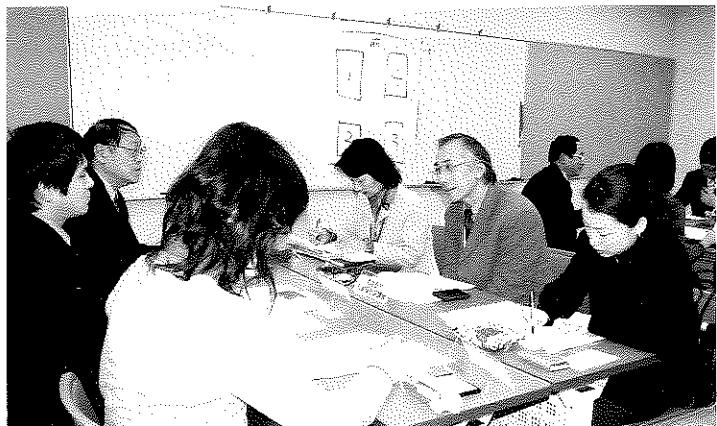
第2次ブームは、2000年前後の「大学改革」がいろいろ議論されていた時期です。中央教育審議会から「21世紀の大学像と今後の改革方針について」という答申が出された頃で、明治学院大学ボランティアセンターなどがこの時期にオープンしています。

そして現在は第3次ブームとも言うべき時期で、立命館大学や、今日が参加の関西大学、桃山学院大学などでセンターやビューローが開設されています。

ボランティアを通じた 「3つの学び」と「地域貢献」

では、なぜこのように大学ボランティアセンターの開設が続くのでしょうか。





大きな理由として、学生たちが「市民として成熟」していく上で、ボランティア活動が大きな意味を持つと認識され始めたことが挙げられると思います。シチズンシップエデュケーションという言葉も一般的になつてきましたが、若者たちが人間としての幅を広げ、可能性を拓いていく上でも「現実の社会を知る」ことは大切で、その手段としてボランティア活動が位置づけられるようになつたと言えるかもしません。

およそボランティアには、「3つの学び」があると言われています。一つは「他者を知る」。さまざまな他者と会うことで、社会にはいろいろな人たちがいることをボランティア活動は気づかせてくれます。二つめは「社会を知る」。活動を通じて社会と自分を結んでいくなかで、人権や環境、貧困などの社会がかかえる課題に気づくという学びです。加えて、そのことを通じて自己を相対化して理解するという「自分を知る」という3つの学びです。こうした意味からの、すなわち学生の学びをベースに置いた視点がますますあります。

もう一つは、「大学の地域社会への貢献」という視点です。これまで、欧米に比べて日本の大学は、地域社会との交流はほとんど取り組まれてきませんでした。しかしそれからや地域づくりが社会的に注目されるようになるなか、「地域資源としての大学」が期待されるようになつてきました。そこで大学が地域と交流し、地域に貢献するための機関としてボランティアセンターが位置づけられ、開設されるようになつてきたと言えます。

望まれる、 学外の関係機関との連携

と言つても、大学ごとにそのタイプはさまざまです。学生が主体的・能動的に運営している「学生主導型」、正規の機関として職員も配置されている「大学（執行部）主導型」、その中間に「大学（執行部）主導型」、あるいは特定の教員の個人的ネットワークをベースにした「教員主导型」など、いろいろあります。また「大学（執行部）主導型」にも、既存の



大学職員が担当する場合があれば、専門職としてコーディネーターを外部から新規採用しているところもあります。さらに地域の社協ボランティアセンターや学外のNPO・NGOなどと積極的な連携を図っている大学もあれば、それには消極的なところもあるようですね。

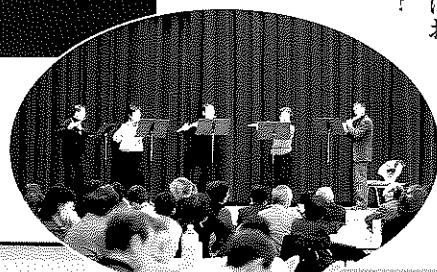
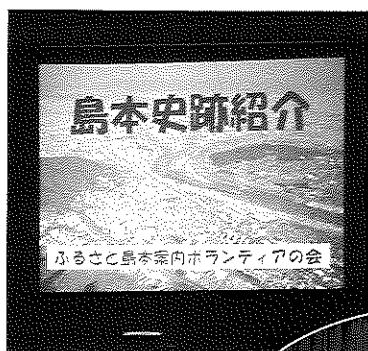
しかし、いずれにせよ、大学ボランティアセンターへの社会的な期待は今後ますます高まっていくだろうと思われます。そのためにも、学生へのコーディネーションはもちろん、大学ごとの特徴を発揮した独自プログラムの開発、また学外の関係機関との連携が望まれるのは言うまでもありません。そんな意味からも本日はこのあと、各大学と

筒井のり子さんのお話のあと、参加者はグループに分かれて情報交換。大学からは「これまであまりよく知らなかつた社協のことが理解できた」、また社協職員からは「大学の新しい動きに触れるところで、自分たちの新しい課題が見えてきた」という声が聞かれました。

筒井さんが触れられた「学生の学び」と「大学の地域貢献」を支援するという意味からも、大学と社会福祉協議会との継続的な連携の必要性が確認され、初めての情報交換会では活発な意見交換が行われました。



市町村社協のみなさんとの間で、充分な情報交換・意見交換をしていただきたいと思います。



平成18年度 ボランティアつどい開催! 島本町

3月8日（木）島本町ふれあいセンター・ケリヤホールを会場に、ボランティア連絡会主催によるボランティアのつどいが開催されました。

当日は22グループより150名を超える参加があり、会場はほぼ満席状態。ボランティアグループの活動発表として島本町の歴史紹介、ダンス、フルート演奏に続き、各テークルでの交流会。最後にはお楽しみ抽選会、豪華賞品？で締めくくり。非常に活気のある催しとなりました。

ボランティア連絡会の結成はまだ1年余り。

この日の活気がこれから島本町でさらに広がることを期待しています。



実行委員会を立ち上げ、 ボラフェスを開催! 大東市

平成19年3月11日（日）記念すべき第一回「大東市ボランティアフェスティバル」を開催しました！

フェスティバルをより有意義にしたいとの思いで、18人のメンバーで実行委員会を立ち上げました。3回にわたる会議の中で「パネル展示にも力を入れたいね」「来場者への声かけが大事やな」「手伝ってくれる仲間に声かけるわ」と建設的な意見が飛び交いました。

当日は強い風にみまわれましたが、模擬店ではうどんやフランクフルトをほおばるお客様でいっぱいになりました。体験コーナーではスタンプラリーの用紙を持った親子連れなどが順

番待ちをするなど大盛況。

2階イベントコーナーではボランティアの熱心な声かけにより、アニメ70名、マジック98名、ライブ107名、落語106名、とりのイベント笑福亭仁福＆仁嬌によるビンゴ大会は、隣の方と肩が触れ合うほどの大盛況ぶりで約200名を超える来場者を迎えるました！

普段の活動を知つてもらうだけでなく、人と人の「輪」をつなぐものになつたのではないか。

羽曳野市ボランティア連絡会は、加入グループ24、会員数300人弱で構成されています。

内容は、「手伝う」＝高齢者、障害児・者の手助け、「まもる」＝環境問題、「つくる」＝録音データー、料理、手芸、自助具など、「集める」＝ハガキなど、その他、要約筆記、散髪など多岐に亘ります。

しかし、会員の高齢化はどのグループでもじわじわ進行しています。「若い世代を育てたい」：そんな思いで取り組んでいるのが小学校、中学校からの「ボランティアについての話を聞いてほしい」との依頼への取り組みです。

時間の制約があるなか、「できるだけいろいろな活動を紹介したい」「自分たちにもできることがあるというこ



とをわかってほしい」「ボランティアで楽しい」「周りの皆が喜んでくれる」…などを、子どもたちに感じて欲しい資料やイラストをいろいろ準備します。

そしてその後、雑巾を縫つて届けてくれた子どもたち、公園や道路のゴミ拾いをして「地域のおばあちゃん」と話が弾んだよ」と話してくれた子どもた

ち、牛乳パックを捨てないで「リサイクルに協力するようになつたよ」と言つてくれた子どもたち。いまは「点」だけれど、やがて「線」になり「面」になつてほしいと願っています。

少子・高齢化が進むなか、ボランティア連絡会には今後、どのような活動が求められているのか、何ができるのか：を模索しながら、あきらめず、明るく、楽しみながら活動に関わっていきたいと思います。

河南 "育つといいな "若いボランティアの芽

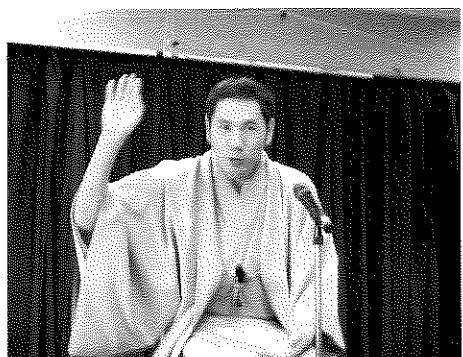
羽曳野市

泉州ブロック交流会 ボランティア研修会 癒しませんかボランティアの心とからだ

—岸和田市—



泉州



泉州ブロック交流会を、2月24日（土）、岸和田市ボランティア連絡会の研修会と兼ねて開催しました。

高齢社会に超がつく時代、ボランティアも高齢化という深刻な問題を抱え、不安定な社会の中で、心身ともに疲れています。

心を癒す研修会にと、落語家の4代目桂文昇さんに講師依頼をしたところ、快く引き受けくださいました。

気さくな人柄で、当日は、座布団と毛氈持参で、150名の参加者を、

心のそこから笑わせる落語を1席。生きの落語は一味もふた味も違ひ、さすがプロ、天満天神繁昌亭の売れっ子落語家です。

落語の後は楽しい話で、また会場は笑いでいっぱい。話を聞いて、ボランティア活動をしていると心が雨の日や風の日があるけれど、自分の心の持ち方で晴れの日に変わるように気がしました。

笑いで心を癒した後は、食育の話を連絡会のグループ、岸和田市食生活改善推進協議会のボランティア仲間に話してもらいました。

日々の食事を大切に、健康を維持することは、ボランティア活動を継続させるために大事なことです。

泉州ブロックの話し合いに、桂文昇さんも加わってもらいました。話し合いの中で、「食事の大切さを実感する話だった」、「目からうろこの研修会だった」と、予想以上の評価がありました。

桂文昇さんにまた来てもらえないかという話もあり、笑いというテーマの斬新な研修は大成功でした！

大阪府ボランティア・市民活動センターは、こんなところ

●情報収集・提供機能

『各種団体の情報誌等を整理し閲覧できるようにしています。またホームページや大阪ボランティア情報ネットワークで常に新鮮なボランティア・市民活動に関する情報を提供しています。

●相談機能

月曜日～土曜日まで窓口や電話等でボランティア・市民活動に関する相談を受け付けています。

●教育・研修機能

ボランティアリーダー研修やテーマ別ボランティア研修会等の各種研修を開催しています。

●連絡・調整ネットワーク

大阪府内の市町村社会福祉協議会や大阪府市町村ボランティア連絡会等と連携し幅広く活動支援を展開しています。

●調整・研究機能

ボランティア・市民活動の現状や課題、各種テーマにそった研究等を行っています。

●普及・啓発機能

『ボランティアOSAKA』を発行し、大阪府内のボランティア活動について幅広く取材掲載しています（季刊発行）。夏季には「夏の体験プログラム」を実施し、ボランティア活動への参加促進の取組を進めています。

●活動・運営支援機能

助成金の案内やボランティア活動総合補償制度の運営、センター登録などを実施しています。

大阪府ボランティア・市民活動センターでは大阪府内の市町村社会福祉協議会や中間支援団体と連携し、地域に根ざしたボランティア・市民活動を推進するためにさまざまな取り組みを行っています。

センターのホームページや情報誌『ボランティアOSAKA』では、社会福祉協議会の全国ネットを活かして集められた全国のボランティア・市民活動や助成金などの情報・資料が自由に閲覧できる他、活動の幅を広げるためのさまざまな研修会の開催、安心して活動するためのボランティア活動総合補償制度の運営などボランティア・市民活動に関する総合的な支援を行っています。

まずはお気軽に問い合わせください。

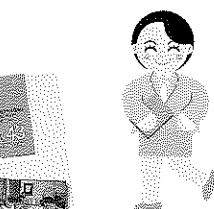
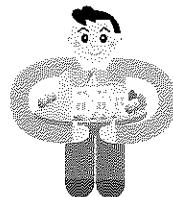
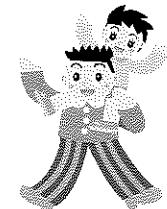
〒542-0065 大阪市中央区中寺1丁目1-54

大阪社会福祉指導センター内

TEL 06 (6762) 9631 FAX 06 (6762) 9679

URL <http://www.osakafusyakyo.or.jp/vcenter/vcenter.html>

E-mail osakavc@osakafusyakyo.or.jp



大阪府内のボランティアセンター一覧

大阪府ボランティア・市民活動センター

T542-0065 大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内 TEL : 06-6762-9631 FAX : 06-6762-9679

市町村名	所 在 地	電 話	FAX
北 摂			
池田市	563-0041 池田市満寿美町6-23	072-753-8858	072-753-3444
茨木市	567-0888 茨木市駅前4-7-55 茨木市福祉文化会館内	072-627-0086	072-627-0434
島本町	618-0022 島本町桜井3-4-1 ふれあいセンター内	075-962-5417	075-962-6325
吹田市	564-0072 吹田市出口町19-2 吹田市立総合福祉会館内	06-6339-1210	06-6339-1202
摂津市	566-0022 摂津市三島1-1-1 摂津市役所西別館内	06-6318-1128	06-6383-9102
高槻市	569-0067 高槻市紺屋町3-1-303 グリーンプラザ3号館3階	072-683-2200	072-683-2209
豊中市	561-0881 豊中市中桜塚2-28-7 豊中市立福祉会館内	06-6848-1000	06-6841-2388
豊能町	563-0101 豊能町吉川187 町立保健福祉総合施設豊悠プラザ内	072-738-5370	072-738-0524
能勢町	563-0341 能勢町宿野114	072-734-0770	072-734-2623
箕面市	562-0036 箕面市船場西1-11-35	072-749-1535	072-727-3590

河 北

交野市	576-0034 交野市天野が原町5-5-1 交野市立保健福祉総合センター内	072-894-3737	072-894-3737
門真市	571-0064 門真市御堂町14-1 門真市保健福祉センター内	06-6902-6453	06-6904-1456
四條畷市	575-0054 四條畷市中野新町11-31 四條畷市立福祉コミュニティセンター内	072-878-1210	072-878-6888
大東市	574-0037 大東市新町13-13 大東市立総合福祉センター内	072-874-1082	072-874-1828
寝屋川市	572-0036 寝屋川市池田西町28-22 寝屋川市立総合センター内	072-838-0400	072-838-0166
枚方市	573-1191 枚方市新町2-1-35 ラポールひらかた内	072-841-0181	072-841-0182
守口市	570-0083 守口市京阪本通2-13-1 さつきホールもりぐち内	06-6992-2715	06-6993-0134

河 南

大阪狭山市	589-0021 大阪狭山市今熊1-85 大阪狭山市福祉センター内	072-367-1761	072-366-7407
柏原市	582-0018 柏原市大県4-15-35 健康福祉センター内	072-972-6760	072-972-6761
河南町	585-0014 河南町大字白木1371	0721-93-6299	0721-93-5299
河内長野市	586-0041 河内長野市大師町26-1	0721-65-0133	0721-65-0143
太子町	583-0991 太子町大字春日963-1 総合福祉センター内	0721-98-1311	0721-98-2111
千早赤阪村	585-0041 千早赤阪村大字水分195-1 保健センター内	0721-72-0081	0721-70-2037
富田林市	584-0037 富田林市宮甲田町9-9 富田林市総合福祉会館内	0721-25-8200	0721-25-8230
羽曳野市	583-8585 羽曳野市菅田4-1-1 羽曳野市立総合福祉センター内	072-958-2315	072-958-3853
東大阪市	577-0054 東大阪市高井田元町1-2-13 東大阪市立総合福祉センター内	06-6789-5550	06-6789-5611
藤井寺市	583-0035 藤井寺市北岡1-2-8 ふれあいセンター内	072-938-8220	072-938-8221
松原市	580-0015 松原市新堂1-589-6 松原市立総合福祉会館内	072-333-0294	072-336-0806
八尾市	581-0018 八尾市青山町4-4-18 サポートやお内	072-925-1045	072-925-1161

泉 州

泉大津市	595-0026 泉大津市東雲町9-15 泉大津市立総合福祉センター内	0725-23-1393	0725-23-1394
和泉市	594-0041 和泉市いぶき野5-1-7 アイ・あいロビー内	0725-57-0294	0725-57-3294
泉佐野市	598-0007 泉佐野市上町1-2-9 泉佐野市立福祉センター内	072-464-2259	072-462-5400
貝塚市	597-0072 貝塚市中1-18-8 保健・福祉合同庁舎内	072-439-0294	072-439-0035
岸和田市	596-0076 岸和田市野田町1-5-5 岸和田市立福祉総合センター内	072-430-3366	072-430-3367
熊取町	590-0451 熊取町野田1-1-8 熊取ふれあいセンター内	072-452-6001	072-452-2658
泉南市	590-0521 泉南市樽井1-8-47 泉南市総合福祉センター内	072-483-0294	072-483-0294
高石市	592-0011 高石市加茂4-1-1	072-265-7600	072-261-9375
田尻町	598-0091 田尻町嘉祥寺883-1	072-466-5015	072-466-8841
忠岡町	595-0812 忠岡町忠岡中2-16-25	0725-31-1666	0725-31-3555
阪南市	599-0292 阪南市尾崎町35-1 阪南市役所内	072-471-5678	072-471-7900
岬町	599-0303 岬町深日3238-24	072-492-0633	072-492-5701

豊中市

講演会 空飛ぶ車イス

「どういった所でやる車イス世界旅」

車イスで世界70カ国以上を訪問し、現在はパリアフリー・コンサルタントとして都市計画や商品開発に活躍する木島英登さんのお話をうかがいます。参加費無料

日時 5月11日(金)

午前3時～午後4時30分

場所 豊中市立福祉会館

主催 豊中市社会福祉協議会ボランティアネットワークとよなか

問い合わせ 豊中市社会福祉協議会 TEL 06(6841)93393

ボランティアスクール入門講座

「福祉の町づくりとボランティア」をテーマに、ボランティアの基礎知識を学びます。

日時 5月11日、12日、19日

午前3時～午後4時30分

場所 豊中市立福祉会館

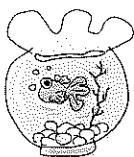
主催 豊中市社会福祉協議会ボランティア活動推進センター(ふりと)

問い合わせ 豊中市立福祉会館 TEL 06(6848)1000

吹田市

吹田ボランティアフェスティバル2007

(誰だって輝きつづける愛がある)



ボランティア体験ワーキングや楽しいバザー、飲食屋台もあります。露天決行入場無料

日時 5月27日(日)

午前10時～午後3時

場所 吹田市役所駐車場

問い合わせ イアセンター TEL 06(6333)12254

門真市

手づくり介護用品展示会

市内で活動する若葉会が、床ずれ予防のビーズマットや車イス用雨具など、工夫を凝らした作品を多数展示します。

日時 5月14日(月)～20日(日)

午前10時～午後3時

場所 ダイエー古川橋駅前店

問い合わせ 門真市社会福祉協議会 TEL 06(6902)6453

●正しく知ることで優しい手助けへ
「発達障害を学ぶ
ボランティア講座」



日時 5月14日(月)～20日(日)

午前10時～午後3時

場所 富田林市立社会福祉協議会

問い合わせ 富田林市ボランティア活動推進センター(ふりと)

申込み TEL 06(6848)1000

柏原市

要約筆記奉仕員養成講座

聴覚障害者、難聴者のサポートをしませんか？次のどちらかのコースを選択してください。



●要約筆記通訳過程
柏原市で要約筆記奉仕員として活動が可能な方

●パンコン字幕通訳過程
柏原市で要約筆記奉仕員として活動が可能な方で、講座にノートPCを持参でき、キーボード操作に関してタッチタイピングが概ね可能な方

日時 5月17日～9月28日(毎週金曜午後1時～午後4時)

場所 柏原市健康福祉センター「オアシス」

問い合わせ 柏原市社会福祉協議会ボランティア・市民活動センター TEL 0729(72)6760

第18回 河南町健康福祉まつり



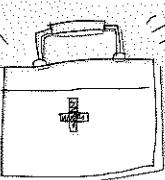
日時 5月25日(金)、6月25日(月)

午前10時～午後12時。定員20名

問い合わせ 参加費無料 TEL 06(6848)1000

「いきいき健康歩れ安いの輪」をテーマに、バザー、パネル展示、もちつき、カラオケ大会、模擬店などを開催します

能登半島地震義援金の受付について



1. 受付期間 平成19年3月27日(火)～平成19年9月28日(金)
 2. 受付方法 郵便振替 口座名義 日本赤十字社石川県支部 口座番号 00780-1-3
 3. 振替用紙の通信欄に「平成19年度能登半島地震義援金」と明記してください。
- (2) 受領証の発行を希望の場合は、その旨を通信欄に記載してください。
- (3) 郵便局窓口での取扱いの場合 振替手数料は免除されます。
- ※ 寄せられた義援金の配分は、石川県、日本赤十字社石川県支部、石川県共同募金会等で構成される義援金配分委員会で決定します。
- ※ この他、石川県、石川県共同募金会でも義援金を受け付けています。

河南町

日時 5月20日(日)

午前10時～午後4時

場所 総合保健福祉センター

問い合わせ 河南町社会福祉協議会 TEL 0721(933)6299

ボランティア活動保険 Q&A

ボランティア活動総合補償制度に関するご質問の中で、特にご照会の多いものについて、ご案内いたします。ご加入をご検討の際、ご参考にしていただければ幸いです。

Q¹

平成19年度のボランティア総合補償制度で変わったところはありますか？

A¹

はいあります。ボランティア活動保険に関して、死亡後遺症の補償額がアップしました。具体的には死亡・後遺障害保険金が以下のとおりに変更になりました。

プラン	18年度	19年度
Bプラン	2,270万円	2,935万円
Cプラン	1,050万円	1,281万円

Q²

ボランティア活動が無事終了したのでメンバーのうち数人が帰る途中、通常の帰宅のルートを外れて「お疲れ様会」をした後、その帰りに一人が交通事故にあいケガをしました。保険で補償されるのでしょうか？

A²

ボランティア活動保険では活動者の往復途上の事故も対象となります。また、「往復途上」とは自宅（出発地）と活動場所との間を「合理的な経路および方法」により往復することをいいます。



したがって上記のように、活動場所から自宅に帰る途中で「合理的な経路」からそれた場合は、補償の対象となりません。

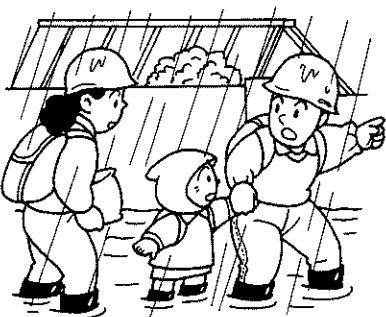
また、合理的な経路の途上でも、どこかに立ち寄った場合は（例：スーパーで買い物）、その時点で、ボランティア活動は終了したとみなされます。この場合、立ち寄り地点から自宅までの途上でケガをされても、ボランティア活動保険では補償されませんのでご注意ください。

Q³

近年は災害が多く発生していますが、台風災害時のボランティア活動は天災タイプのCプランに加入していないと補償されないのでしょうか？

A³

台風などの風水害によるケガはBプランで補償されます。Cプランでさす天災とは①地震②噴火⑩津波になります。よって余震によりケガをした場合には、天災担保のCプランでないと補償されませんので、そのような状況下での活動の場合はCプランへの加入をおすすめします。そのときは新たにCプランに加入することになります。



Q⁴

AさんはNPO法人でボランティアとして活動している時に利用者にケガをさせてしまいました。ボランティア活動保険で補償されますか？

A⁴

補償されます。NPO法人におけるボランティア活動については「特定非営利活動法人特約」にて、ボランティア自身は当然のこと、NPO法人に責任が及んだ場合は、自動的にNPO法人も補償の対象者となります。



ボランティア・市民活動保険のごあんない

引受保険会社：三井住友海上火災保険株式会社

ボランティア活動中の事故に備えて ボランティア活動保険			各種イベント参加者の補償に ボランティア・市民活動行事保険		
補償内容			補償内容		
ボランティアがボランティア活動中に、①偶然な事故によってケガをした場合の「傷害保険」、②第三者の身体や財物に損害を与えた場合の「賠償責任保険」、③ボランティア活動中に死亡し、「傷害保険」の給付対象にならない場合の「死亡見舞金」の3つの制度がセットされています。			ボランティア団体や各種の市民団体が主催する行事の参加中に、①参加者が偶然な事故によってケガをした場合の「傷害保険」と②主催者または参加者が第三者の身体や財物に損害を与えた場合の「賠償責任保険」の2つの制度がセットされています。		
傷害部分	Bプラン	Cプラン（天災担保）	傷害部分	I型（宿泊なし）	II型（宿泊あり）
本人のケガ	死亡・後遺障害 2,935万円	死亡・後遺障害 1,281万円	本参加者のケガ	死亡 500万円	後遺障害 15~500万円
ボランティア	入院（1日あたり）9,000円	入院（1日あたり）6,000円		入院（1日あたり）3,000円	通院（1日あたり）2,000円
ケイイア	通院（1日あたり）6,000円	通院（1日あたり）4,000円		手術保険金／入院保険金日額に手術の種類に応じた倍率を乗じた額	
特定感染症	手術保険金／入院保険金日額に手術の種類に応じた倍率を乗じた額		対人	1名あたり 最高1億円	1事故あたり 最高2億円
天災	補償します	補償します	対物	1事故あたり 最高500万円	
対人	×	補償します	見死舞亡金	死亡人の	
対物	対人、対物共通 最高 5億円	対人、対物共通 最高 5億円			
見死舞亡金	死亡 30万円	死亡 30万円			
保険料	ボランティア1名 年間（中途加入でも同じ）		I型	II型	
	500円	700円	A区分	30円	1泊2日 248円 4泊5日 328円
加入できる人や対象となる活動	・無償であること（交通費、食事代など除く） ・自助活動ではないこと ・活動のための会議や、往復途上も含む		B区分	130円	2泊3日 256円 5泊6日 336円
保険有効期間	毎年4月1日から翌年3月31日まで (中途加入の場合は受付日の翌日から)		C区分	253円	3泊4日 264円 6泊7日 344円
各種NPO団体等の活動に 非営利・有償活動団体保険			移送サービス活動に 移送中事故傷害保険		
補償内容			補償内容		
ボランティア保険の対象外で、有償活動を行う団体が活動中に、①スタッフが偶然な事故によってケガをした場合の「傷害保険」と②利用者などの身体や財物に損害を与えた場合の「賠償責任保険」がセットされています。			移送サービス事業の活動中に、車輌に搭乗中の加入者や利用者がケガをした場合、実施主体の責任の有無に関係なく補償します。		
傷害部分	Aプラン	Bプラン	傷害部分	I型（車輌特定）	II型（車輌不特定）
本参加者のケガ	死亡 202万円	死亡 500万円	本参加者のケガ	死亡 266.0万円	死亡 192.4万円
	後遺障害 6~202万円	後遺障害 15~500万円		後遺障害 7.9~266.0万円	後遺障害 5.7~192.4万円
	入院（1日あたり）3,000円			入院（1日あたり）3,000円	
	通院（1日あたり）2,000円			通院（1日あたり）2,000円	
	手術保険金／入院保険金日額に手術の種類に応じた倍率を乗じた額			手術保険金／入院保険金日額に手術の種類に応じた倍率を乗じた額	
対人	1名あたり 1億円	1事故あたり 2億円	対人		
対物	500万円		対物		
見死舞亡金	死亡人の		見死舞亡金	死亡人の	
保険料	Aプラン	Bプラン	I型	II型	
	4,900円	6,300円		2,000円	2,000円
	(車定員1名あたり)			(記名利用者1名あたり)	
加入できる人や対象となる活動	営利目的ではないが利用者から実費を越える報酬を得ている活動、団体		加入できる人や対象となる活動	移送サービスを実施するサービス実施主体の運転者、同乗のスタッフがその利用者	
保険有効期間	毎年4月1日から翌年4月1日まで (中途加入者は翌月15日~)		保険有効期間	毎年4月1日から翌年4月1日まで (中途加入者は翌月15日~)	

市町村の社会福祉協議会へ保険料とともにお申し込みください



三井住友海上火災保険株式会社

大阪金融公務部 第四課 TEL.541-0043 大阪市中央区高麗橋4-4-9

TEL.06-6233-1536 FAX.06-6233-0204

ホームページ www.ms-ins.com

各種損害保険・生命保険取扱 島本保険事務所

Tel.541-0056 大阪市中央区久太郎町4丁目1番3号

大阪センタービル2階（伊藤忠ビル）

TEL.06-6252-4520 FAX.06-6245-4686